

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県南会場>

科目 ⑨こどもの遊びの理解と支援

- ◆ 子どもにとっての遊びが、ただの“楽しい”だけでなく、自発的、主体的に行うことで、言語能力やコミュニケーション能力などの心身の発達に重要だということを改めて考えさせられた。一つの遊びの中で「この子は何を考えているのか」「どのように心が動いているのか」をよく観察し、子どもの理解につなげていきたい。支援員として子どもを側で見守りながら、成功や失敗の体験も受け止めて、安心して一緒に遊べる存在でありたいと思う。
- ◆ 先入観なしに子どもをよく見る、何かに迷ったら子どもを見る、何をしたいのか、何を欲しているのかを見るなど、支援員の子どもに対する対応の在り方を改めて考えることができた。また、遊びの中で失敗や成功ではなく、そこまでの過程と経験が大切なことも知ることができた。これからは、自分自身の遊びの引き出しの充実に努め、一緒に遊び、学び合い、子どもたちの尊厳を大切にしながら関わっていききたいと思う。
- ◆ 子どもにとって生活における遊びが何より大切であり、発達段階に応じた主体的な遊びを通して学び、社会性を身に付けていく重要性を改めて感じさせられました。そのために支援員としての対応の在り方が難しいと感じましたが、力を貸して助け他人を支えること、子どもの声を聴き、見守り、認めたり提案したりしながら、自発的に遊びを見つけられるようにすることが支援であると学ぶことができました。「遊びは人間活動の本質である」という言葉が心に響きました。
- ◆ 今回の研修を通して、改めて子どもの生活における遊びの大切さを感じることができました。遊びの中には学びのきっかけがたくさんあり、自発的な遊びは人間力を身に付けるうえで大切なことでした。また認知力、非認知力は仲間関係の中から育つものなので、遊びの中でのやりとりも重要です。支援員の対応としては、自分の得意とする援助の仕方、子どもたちのいろいろな可能性を伸ばしてあげられるよう丁寧に接していくことが大事だと思いました。
- ◆ 子どもが何らかの目標をもち自発的に遊びを継続し、やり遂げようとする行動が子どもの成長にどれほど大切かを理解しました。言語能力の発達も環境、成長歴等によって個人差があることを学びました。支援の対応として先入観をもたない「まなざし」の「目」が大切であり、聴く力、見守る援助、認める援助、言葉掛け等、子ども側に立って一緒に笑い、子どもと何かをし、関わりながら安心して頼れる存在になれるよう心掛けていきます。